

楠浦よかここMAP

明日へつなぐ眼鏡橋の里

探訪スポット

1 伊賀倉権現古塔群 市指定文化財



五輪の塔43基、ほうきよう印連ら墓など、鎌倉時代から室町時代における古塔が大部分で、1ヶ所に50基以上に及ぶ古塔群があるのは珍しいといわれている。

2 楠浦の眼鏡橋 県指定文化財



楠浦村庄屋・宗像屋敷が楠浦町と新和町を結ぶため方原川に明治11年(1878)に完成させた。長さ26.33m、幅3.05mのアーチ型石橋は、美しさと周りの景観との調和がすばらしいといわれている。

3 楠浦諏訪神社



信州諏訪大社より分霊を受け、豊安年中(1648~1651)に創立した神社で、祀ってある神様は諏訪名方(たけみなかたのみこと)。山頂にあったものを楠浦村庄屋・宗像屋敷が寛文8年(1663)に現在地に移転築造した。

4 立浦の板碑 市指定文化財



磯の中央に現存する板碑の造像が彫り込まれており、その下に碑文がある。その左右に男女の姿が彫られている。建立年月は天文8年(1539)2月朔日とある。

5 釜の追堀切



楠浦村庄屋・宗像屋敷が前瀬新田を水害から守るため、方原川の流れを変える釜の追堀切を文久元年(1861)から足かけ4年で完成させた。全長545m、工事人員は4万2千2百人、総工費3千8百圓である。

7 楠浦ダム(映相湖)



昭和42年(1967)3月に完成した農林省農業用ダム。堤高32m、堤長139mの土えん堤。総貯水量106万8千m³。天幕における初めてのダムで、当時のこの種のダムとしては九州一の規模を誇っていた。

6 宗像本家



宗像本家は、代々楠浦村庄屋を襲名してきた。先祖は、福岡県宗像郡から、江戸元禄年間(1688~1703)に移り住んだといわれている。庭の向うにあるコブむした石垣が歴史の古さを物語っている。

8 あたご神社



方原には、早家の形、浦上清兵衛という軍士が築いてきて、山腹の盆地に住み着いたといえられている。方原の熊相といわれる浦上清兵衛の墓を祀っているのが「あたご神社」である。

9 天神森・楠浦尋常小跡



楠浦の教育の祖・宗像志願は、明治9年(1876)に天神森(天満宮付)に校舎、住宅各一棟を建て、有志の子35人に初等普通学を教えた。教育官備前当初における楠浦小学校の創立である。

10 楠浦新田古墳 市指定文化財



多から1400年前古墳時代後期に築られたものである。丸天井の横穴式石室で、玄室(棺を納める部屋)は、ほぼ方形で4畳半ぐらいの広さ、高さは2.4mある。

11 宗心寺、八十八ヶ所



江戸時代中期、楠浦村庄屋の夫人が出家して庵を建てた。宗心寺の前身の観音堂である。明治43年(1910)、上の原から現在地に移転。境内の奥の山には八十八の石仏が建てられている。

天草市楠浦地区振興会・楠浦町公民館